

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
政治学研究科	政治学専攻	アジア地域	不可(留学生のみ語学辞書可)

次の設問から、一つを選んで論述しなさい。

1. 『朝日新聞』で2025年10月20日から24日にかけて、5日間におわたって連載された「となりの外国人」の記事【添付の五つの資料】すべてを読み、内容を端的にまとめよ。そのうえで、日本で労働力不足を補うために、各業界ではどのような取り組みがなされているのかについて、自分の持っている知見をもとに論じよ。
2. 『朝日新聞』で2025年10月20日から24日にかけて、5日間におわたって連載された「となりの外国人」の記事【添付の五つの資料】すべてを読み、内容を端的にまとめよ。そのうえで、今後の日本において、労働力不足を補うために、いかなる方策／政策が有効であるかについて考えを述べよ。

出典：『朝日新聞』

- 2025/10/20 「となりの外国人 (1) 農業支える人材海外から」  
2025/10/21 「となりの外国人 (2) 介護 難関資格もめざして」  
2025/10/22 「となりの外国人 (3) 工場の人出不足『穴埋め』」  
2025/10/23 「となりの外国人 (4) 多言語操りホテルで接客」  
2025/10/24 「となりの外国人 (5) 後発県選ばれる環境作り」

# 令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	政治学研究科 政治学専攻
試験期別	Ⅲ期
試験区分	一般、社会人、留学生、学内選考
試験科目名	アジア地域

### ■出題の意図

出題者が担当するのは「アジア地域」研究であるが、専門とするのは東南アジアである。出願する学生への適切な指導をするためには、専門性が合致する必要がある。そのため、東南アジアに関する設問を用意した。

### ■採点のポイント

現在、日本では労働力不足を補うために、特定の分野で外国人人材の受け入れを進めている。近年では、東南アジアから特定技能生や技能実習生（2027年度以降は育成就労生）として日本で働く人びとが目立つ。『朝日新聞』で2025年10月20日から24日にかけて、5日間にわたって連載された「となりの外国人」の記事では、日本で働く東南アジア出身の外国人が主に取りあげられている。出願者には、上記5つの記事内容を試験時間内に的確に把握できるだけの日本語能力が求められるだけでなく、業界ごとの事情や労働力不足を補うために必要な方策についての意見を提示することが要求される。